

妙法蓮華經法師品第十

(法を伝える者達)

(202 頁 1 行～206 頁 12 行)

爾の時に世尊、薬王菩薩に因せて八万の大士に告げたまわく、薬王、汝是の大衆の中の無量の諸天・龍王・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦楼羅・緊那羅・摩睺羅伽・人と非人と及び比丘・比丘尼・優婆塞・優婆夷の声聞を求むる者・辟支仏を求むる者・仏道を求むる者を見るや。是の如き等類、咸く仏前に於て妙法華經の一偈一句を聞いて、乃至一念も隨喜せん者には我皆記を与え授く。当に阿耨多羅三藐三菩提を得べし。

(202 頁 1 行～202 頁 6 行)

その時、世尊は、薬王菩薩に向かって呼びかけて、八万人の偉大なる修行者にお告げになりました。薬王よ、貴方はこの大衆の中の数え切れないほどの天人・龍王・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦楼羅・緊那羅・摩睺羅伽と、人間と、人間でないものと、出家の男女、在家の男女と、声聞として阿羅漢の道を求める者・独力で悟りながら誰にも法を説かない聖者に成る道を求める者・仏になる道を求める者たちが見えるであろうか。これらの者達が全て皆、仏の前で、妙法華經の一つの詩、一つの句を聞いて、一瞬でも共感して喜びを感じる者には、私は全員に未来の世に於いて仏に成ることを次のように予言するでしょう。必ず、阿耨多羅三藐三菩提（他者と共有できる最高の仏の悟りの境地）に到達できるでしょう、と。

仏、薬王に告げたまわく、又如來の滅度の後に、若し人あつて妙法華經の乃至一偈・一句を聞いて一念も隨喜せん者には、我亦阿耨多羅三藐三菩提の記を与え授く。若し復人あつて妙法華經の乃至一偈を受持・読誦し、解説・書写し、此の經卷に於て敬い視ること仏の如くにして、種々に華・香・瓔珞・抹香・塗香・焼香・繪蓋・幢幡・衣服・伎樂を供養し、乃至合掌恭敬せん。薬王当に知るべし。是の諸人等は已に曾て十万億の仏を供養し、諸仏の所に於て大願を成就して、衆生を愍むが故に此の人間に生ずるなり。

(202 頁 6 行～203 頁 3 行)

仏は、薬王にお告げになりました。また、如来がこの世を去った後に、もしも、ある人が妙法華經の一つの詩、一つの句でも聞いて、一瞬でも共感して喜びを感じる者には、私はまた、阿耨多羅三藐三菩提（他者と共有できる最高の仏の悟りの境地）に到達できるでしょうと予言します。もしも、またある人が、この妙法華經を銘記して忘れず、読んで暗誦し、人にも説き、書写し、この經典を仏のように敬い視て、様々な華、香、珠玉を連ねた首飾り、腕輪、沈香・栴檀・白檀・丁子を合わせて作った香や、身体に塗る香や、焼香や、絹の天蓋や、竿柱に長い帛を垂れ下げた旗や、衣服や、伎樂を供養し、合掌し、恭しく敬うとしたら、薬王よ、当然知るべきです。この人々は既に過去に於いて十万億の仏を供養し、諸々の仏のどこ

ろにおいて大願を成就して、衆生を憐れむが故に、この世界で人間として生まれて来たのです。

薬王、若し人あって、何等の衆生か未来世に於て当に作仏することを得べきと問わば、示すべし、是の諸人等は未来世に於て必ず作仏することを得んと。何を以ての故に、

若し善男子・善女人、法華經の乃至一句に於ても受持・読誦し、解説・書写し、種々に經卷に華・香・瓔珞・抹香・塗香・焼香・繪蓋・幢幡・衣服・伎樂を供養し、合掌・恭敬せん。是の人は一切世間の瞻奉すべき所なり。如来の供養を以て之を供養すべし。当に知るべし。此の人は是れ大菩薩の阿耨多羅三藐三菩提を成就して、衆生を哀愍し願って此の間に生れ、広く妙法華經を演べ分別するなり。

何に況んや、尽くして能く受持し種々に供養せん者をや。薬王、当に知るべし、是の人は自ら清浄の業報を捨てて、我が滅度の後に於て、衆生を愍むが故に惡世に生れて広く此の經を演ぶるなり。(203 頁 3 行～204 頁 1 行)

薬王よ、もしも、ある人が、「どのような衆生が、未来世において仏になる事が出来るのでしょうか」と問うならば、次のように示すでしょう。「これらの人々こそが未来世において必ず仏になる事が出来るでしょう」と。その理由は何かといえば、

若し、善き志を持つ男女が、法華經の一句だけでも銘記して忘れず、読誦し、人の為に説き、書写して、いろんな方法で、經卷に花や、香や、珠玉を連ねた首飾りや腕輪や、沈香・梅檀・白檀・丁子を合わせて作った香や、身体に塗る香や、焼香や、網の天蓋や、竿柱に長い帛を垂れ下げた旗や、衣服や、伎樂をお供えし、合掌して、恭しく敬うとしたら、この人は、世間の全ての人々から仰ぎ尊ばれるべき方だからです。如来に感謝してご恩返しするように、この人にも感謝してご恩返しをするべきです。そして必ず知っておくべきです。この人は大いなる菩薩であり、阿耨多羅三藐三菩提（他者と共有できる最高の仏の悟りの境地）に到達して、衆生を憐れむが故に自ら進んで、この人間の世界に生まれ、広く妙法華經を説き広め、その人に応じて説き分けるのです。

ましてや仏の教えを尽く銘記して忘れず、様々な方法で感謝してその恩返しをするものならばなおさらなのです。薬王よ、必ず知っておくべきです。この人は、自ら積み重ねてきた過去からの清浄な善行の報いを捨てて、私が世を去った後において、衆生を憐れむが故に、敢えて仏法の衰えた惡世に生まれて、広くこの經を説き広めるのです。

若し是の善男子・善女人、我が滅度の後、能く窃かに一人の為に法華經の乃至一句を説かん。当に知るべし、是の人は則ち如来の使なり。如来の所遣として如来の事を行ずるなり。何に況んや大衆の中に於て広く人の為に説かんをや。

薬王、若し惡人あって不善の心を以て一劫の中に於て、現に仏前に於て常に仏を毀罵せん、其の罪尚お輕し。若し人一の惡言を以て、在家・出家の法華經を読誦する者を毀謗せん、其の罪甚だ重し。

薬王、其れ法華經を読誦すること有らん者は、当に知るべし、是の人は仏の莊嚴を以て自

ら莊嚴するなり。則ち如来の肩に荷担せらるることを為ん。其の所至の方には随って向い礼すべし。一心に合掌して恭敬・供養・尊重・讃歎し、華・香・瓔珞・抹香・塗香・焼香・繪蓋・幢幡・衣服・肴膳をもってし、諸の伎楽を作し、人中の上供をもって之を供養せよ。天の宝を持って、以て之を散ずべし。天上の宝聚以て奉獻すべし。所以は何ん、是の人歡喜して法を説かんに、須臾も之を聞かば即ち阿耨多羅三藐三菩提を究竟することを得んが故なり。

(204 頁 1 行～205 頁 2 行)

若し、善き志を持つ男女が、私が世を去った後に、人知れずに、一人の人の為にでも、法華經の一句だけでも説いたとしたら、必ず知っておくべきです。この人は、如来の使者であるということを。如来から遣わされ、如来の仕事をしているのです。まして多くの人々の中に於いて、広く人の為に説く人ならば、なおさらなのです。

薬王よ、もし悪人がいて、悪意を以って、一劫という長い間、現に仏の目の前で常に仏を誹謗中傷し続けたとしても、その罪はまだ軽いのです。若し、ある人が、一言でも悪意のある言葉で、在家や出家の法華經を読誦する人を謗ったとしたら、その罪は甚だしく重いのです。

薬王よ、必ず知っておくべきです。そもそも法華經を読誦するような者、仏の智慧や福德、美しい姿で、自らの身が莊嚴されていることを。つまり、その人は如来の肩に背負われているようなものなのです。したがって、その人が行くところにはどこでも、そこに向かって礼拝すべきなのです。一心に合掌し、恭しく敬い、感謝して恩返しの行いをし、尊重し、讃嘆し、華や、香や、珠玉を連ねた首飾りや腕輪や、抹香、塗香、焼香や、絹の天蓋や、竿柱に長い帛を垂れ下げた旗や、衣服や、飲食物や、様々な音楽を奏で、人間世界の最上の供物を捧げるべきです。天の宝石をもってこれを散ずるのです。天上の秘蔵の宝を奉るのです。理由は何故かという、この人が歡喜して教えを説くときに、ほんの少しの間でもこれを聞いたならば、すぐにでも阿耨多羅三藐三菩提（他者と共有できる最高の仏の悟りの境地）に到達することが出来るからです。

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく

若し仏道に住して 自然智を成就せんと欲せば 常に當に勤めて 法華を受持せん者を供養すべし 其れ疾く 一切種智慧を 得んと欲することあらんは 當に此の經を受持し 並に持者を供養すべし 若し能く妙法華經を 受持することあらん者は 當に知るべし 仏の所使として 諸の衆生を愍念するなり 諸の能く 妙法華經を 受持することあらん者は清淨の土を捨てて 衆を愍むが故に此に生ずるなり 當に知るべし 是の如き人は 生ぜんと欲する所に自在なれば 能く此の惡世に於て 広く無上の法を説くなり 天の華・香 及び天寶の衣服 天上の妙寶聚を以て 説法者に供養すべし 吾が滅後の惡世に 能く是の經を持たん者をば 當に合掌し礼敬して 世尊に供養するが如くすべし 上饌衆の甘美 及び種々の衣服をもって 是の仏子に供養して須臾も聞くことを得んと冀うべし 若し能く後の世に於て 是の經を受持せん者は 我遣わして人中にあらしめて 如来の事を行ぜしむるなり 若し一劫の中に於て

常に不善の心を懷いて 色を作して仏を罵らんは無量の重罪を獲ん 其れ 是の法華經を 読誦し持つことあらん者に 須臾も悪言を加えんは 其の罪復彼れに過ぎん 人あって仏道を求めて 一劫の中に於て 合掌し我が前にあつて 無数の偈を以て讃めん 是の讃仏に由るが故に 無量の功德を得ん 持經者を歎美せんは 其の福復彼れに過ぎん 八十億劫に於て 最妙の色・声 及与 香・味・触を以て 持經者に供養せよ 是の如く供養し已って 若し須臾も聞くことを得ば 則ち自ら欣慶すべし 我今大利を獲つと 藥王今汝に告ぐ 我が所説の諸經 而も此の經の中に於て 法華最も第一なり (205 頁 2 行～206 頁 12 行)

その時に、世尊は、重ねてこの意義を述べようとして、詩を以って説かれました。

若し、仏道に留まって 自然に仏の悟りの智を成就しようと願うならば 必ず常に努めて 法華經の教えを銘記して忘れない者に感謝しその恩に報いる行いをすべきです すみやかに全てを知る仏の智慧を得ようするならば 必ずこの經の教えを銘記して忘れず または受持する者を感謝しその恩に報いる行いをすべきです 若し よく妙法華經の 教えを銘記して忘れない者がいるならば 必ず知っておくべきです その人は仏の使いとして 多くの衆生を哀れみ思いやる者だと 数多くの妙法華經の教えをよく銘記して忘れない者達は 清浄な国土を捨てて 人々を憐れむ故にこの人間世界に生まれ出でたのだといことを生まれたのです そして必ず知っておくべきです この様な人は 生まれようと思う所に自在に生まれることができるので この仏の教えが失われている時代において 広くこの最高の教えを説き広めることができるのだと 天の華と香 および天の宝石の衣服 天上の素晴らしい宝の数々をもって そのような教えを説く者にお供えして感謝して恩返しをすべきです 私が世を去った後の仏法の衰えた時代に よくこの經の教えを銘記して忘れない者に 必ず合掌し礼拝して 世尊に感謝して恩返しをするようにその人に感謝して恩返しをすべきです 優れた供え物と 諸々のごちそうと 種々の衣服とを この仏の子に捧げて 少しの間でも教えを聞きたいと願いなさい 若し 後の世において この經の教えをよく銘記して忘れない者が居たら その人は私が人間の中に遭わして 如来の仕事させている者なのです 若し 一劫の間に於いて 常に悪意を以って 怒りも露わに仏を罵ったりしたら 無量の罪を得ることになるでしょう しかしこの法華經を 読誦して教えを銘記して忘れない者に ほんの少しの間でも悪言を言ったとしたら その罪はそれ以上となるのです ある人が仏道を求めて 一劫という長い間において 合掌し私の前で 無数の詩によって讃嘆すれば この仏を讃嘆した事により 無量の善い結果を得ることができるよう しかし經の教えを銘記して忘れない者を心から讃嘆すれば それによって得られる善い結果はそれ以上となるでしょう 八十億劫の間に於いて 最も優れた形や声 および香、味、感触によって 經の教えを銘記して忘れない者に捧げなさい そのように感謝して恩返しをして その少しの間でも教えを聞く事ができたなら 私は今大きな利を得たと喜ぶべきなのです 藥王よ今おまえに告げる 私の説いた全ての諸經の中で この法華經こそが最も第一なのであると